

ビジネスアイディアの概要

H.J.Perkinsonはダーウィンの進化論を引き合いに、「**we learn from our mistakes**」と失敗からの学びの重要性を解いている。しかし、演習問題などを通して解答の正誤は容易に判定可能であるが、原因の特定には学習者の解答に至るプロセスをトレースした上で特定するため、成熟した指導者が必要不可欠であった。これをマルチモーダルAIで可能となれば、学習者は地理的、経済的、社会的な要因に左右されにくい効果的な学習支援を受けることができる。

ビジネスアイディアを事業化するための課題

- ・ 学習状況から適切なサポートタイミングの判定
- ・ 解答の正誤判定
- ・ 解答プロセスからの誤り箇所の特定
- ・ 誤りの原因特定
- ・ 誤り改善のための知識や練習問題の提示

事業化の見通し

生成AIを活用した練習問題自動生成については、一定の研究成果はでている。一方で、誤り原因の特定については、未解決な部分が多い。そのため、各種マルチモーダルのAIから得られた知見を元に、対象分野を限定し、安定した原因の特定法を見出す必要がある。さらに、アプリケーション開発やデバイスの検討、コスト等の試算が必要となる。そのため、学習支援システムの提供先としてターゲットを限定して検討する必要があると考えている。

事業者情報

- ・ 雲居 玄道
(長岡技術科学大学)
- ・ 荒川 由晃
(株式会社スナップ新潟)



ビジネスアイディア概要図等

